▼フィンテプラ内用液 [内]

【重要度】 【一般製剤名】 フェンフルラミン塩酸塩 Fenfluramine Hydrochloride 【分類】

【単位】 ▼2.2mg/mL

【常用量】

◎スチリペントールを併用時：0.2mg/kg/日（分2）〔最大0.4mg/kg 日で17mg/日まで〕

○スチリペントール非併用時：0.2mg/kg/日（分2）〔最大0.7mg/kg 日で26mg/日まで〕

増量は1週間以上の間隔をあげ、具体的な用量設定は添付文書参照

【用法】 1日2回

【透析患者への投与方法】 データがない (1) 50～75%量から開始 (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 高度腎障害患者で未変化体濃度が上昇するが、ノルフェンフルラミンへの影響は軽度 (1)

【特徴】 作用機序は明確ではないが、セロトニン放出を介した複数の5-HT 受容体サブタイプの活性化作用を介して Dravet 症候群の発作減少に寄与すると推測。

【主な副作用・毒性】 心臓弁膜症、肺動脈性肺高血圧症、セロトニン症候群、疲労、食欲減退、傾眠、散瞳、閉塞隅角緑内障患者、てんかん重積

【安全性に関する情報】 心臓弁膜症及び肺動脈性肺高血圧症を引き起こすおそれあり循環器医と連携 (1)

【吸収】 食事の影響を受けない (1)

【F】 68～83% (1)

【tmax】 3hr 以内 (1)

【代謝】 主に CYP1A2, CYP2B6, CYP2D6 により活性代謝物のノルフェンフルラミンに変換 (1) ノルフェンフルラミンは脱アミノ化及び酸化により不活性代謝物となる (1)

【排泄】 尿中回収率90%以上で、未変化体およびノルフェンフルラミンとして25% (1) 尿中活性体排泄率は酸性尿で上昇し、アルカリ尿で低下 (1)

【CL/F】 30～42L/hr (1) 重度の腎機能障害患者 25.5L/hr (1)

【t1/2】 スチリペントール併用時 35hr, 非併用時 20hr (1) 腎機能正常者と腎機能障害時の半減期はそれぞれ未変化体 20hr, 28hr, ノルフェンフルラミン 35hr, 50hr と腎機能低下による消失が遅延 (1)

【蛋白結合率】 50% (1)

【Vd/F】 1000L/body (1)

【MW】 267.72

【透析性】 血中からは除去されるが、Vd が大きいため効率的ではない (5)

【O/W 係数】 3.36 [オクタノール/水] (1)

【相互作用】 MAO 阻害剤との併用禁忌 [中止後14日以内も禁忌] (1)

【主な臨床報告】

【更新日】 20230513

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。